

社会生活を送るなかで、外国語を使って必要な事柄や気持ちを伝えたり、情報や知識をやりとりする機会が多くなりました。仕事のために否応なく外国語を使わなければならないことも確かに少なくありませんが、それよりも、外国語を身につけることによって、より心豊かに生きてゆけるのだと考えるほうが肯定的で良い姿勢でしょう。泳ぐのを覚えたりギターが弾けたりするようになれば、それだけ生きる喜びが増すのと同じことです。外国語を媒介にして、より広い範囲の、文化的背景が異なる人たちと、映画・スポーツ・音楽など、自分の関心のある事柄について情報や感じ方を伝え合うのは楽しいものです。

歴史的な事情から、現在、いちばん通用性の大きな外国語は英語です。ですから、少なくとも易しい英語だけは大学生の間に使えるようにしましょう。そして、英字新聞の一般記事の大意が理解できるくらいにはしておきましょう。すでに易しい英語が使える人は、表現力を豊かにするように心がけましょう。例えば、自分の専門領域について英語で意志疎通ができるようになるといいですね。

英語が使えるようにするために大事なことをいくつか書いておきます。

第一に、理解できるのと使えるのとは次元が違うということを認識してください。例えば、大学受験レベルの英語が理解できるからといって、中学校レベルの英語が使えるということではありません。理解できないものはもちろん使えませんが、理解できるというのは、使えることへの単なる一歩にすぎません。

第二に、最も基礎的な水準—例えば、中学校レベルの英語—の構文や語彙を徹底的に練習した人だけが英語が使えるようになります。このレベルの構文と語彙がすべての土台です。土台がしっかりしていなければ、その上に何を載せても崩れてしまいます。基礎レベルの英文が無意識に正しく言え、書けるようにしましょう。

第三に、英語を習得するのは、みなさん自身です。教員は、習得の手助けはできますが、記憶するのはみなさんの脳であり、話すのはみなさんの口であり、書くのはみなさんの手です。これから掲げるシラバスには到達目標が書いてありますが、それに到達できるのは、教員の指示にしたがって十分に自学・自習する人たちだけです。

第四に、英語はできるだけ毎日練習するようにしましょう。スポーツや楽器と同じです。いつも練習していないと、せっかく身につけた力もたちまち落ちてしまいます。

第五に、英語を理解することと日本語に訳すこととを混同しないようにしましょう。翻訳作業をしているのでもない限り、日本語訳は英語が理解できているかどうかを測る一つの目安にすぎません。ある文脈のなかで与えられた英文の構造、及び使用されている語彙・表現からその英文によって伝えられるべき意味が正しく理解できれば、それでいいわけです。英語を英語として理解する—それを目標に英語学習を進めてもらいたいと思います。

神奈川大学の英語カリキュラムは、全体として、英語をコミュニケーション—話し言葉と書き言葉による意志・気持ち・情報・知識の相互伝達—の道具にすることを目指して組み立てられています。

しかし、必修科目としての英語—「クラス英語」と呼んでいます—だけでは、英語の力を伸ばすためには不十分だと言わねばなりません。ですから、それらに加えて、「選択英語」をできるだけたくさん履修してください。「選択英語」は、特に力をつけたい分野(「読解」、「会話」、「作文」、「リスニング」など)を適切なレベルで学修できるようになっています。

また、2006年度から、コンピュータを使った「Eラーニング・システム」が導入され、学内・学外を問わず、オンラインで英語の自主学習ができるようになりました。大いに活用して力を伸ばしてください。

では、心豊かな学生生活が送れるように頑張ってください。努力を厭わなかった人たちには、その努力の分だけ—いえ、きっと、それ以上の達成・喜びが約束されることでしょう。

1 ス페인語学科の「クラス英語」

習熟度別のクラス編成になっています。

(1) 1年次生

クラスは、みなさんが4月初旬に受験する「プレイスメントテスト」の結果を基に決定されます。クラス決定後は、それぞれのレベルの「英語コミュニケーション(Listening)」と「英語ライティング基礎」を前期に履修し、「英語コミュニケーション(Listening)」と「英語ライティング基礎」を後期に履修します。

「英語コミュニケーション(Listening)」では、主に、リスニングに重きを置きながら、基礎的英語コミュニケーション

ン能力の育成を目指した指導が行われます。

「英語ライティング基礎」では、ネイティブ教員により、基礎レベルの実践的な英作文の指導が行われます。

(2) 2年次生

みなさんが1年次の2月初旬に受験する「プレイスメントテスト」の結果を基に再編成されるクラスで、「英語コミュニケーション(Reading)」と「英語ライティング応用」を前期に履修し、「英語コミュニケーション(Reading)」と「英語ライティング応用」を後期に履修します。

「英語コミュニケーション(Reading)」では、主に、読解の指導に重きを置いた指導が行われます。

「英語ライティング応用」では、ネイティブ教員により、応用レベルの実践的な英作文の指導が行われます。

なお、「クラス英語」においては、授業回数の4分の3以上の出席が単位修得の必須条件となっていますので、きちんと出席してください。

2 中国語学科の「クラス英語」

習熟度別のクラス編成になっています。

(1) 1年次生

クラスは、みなさんが4月初旬に受験する「プレイスメントテスト」の結果を基に決定されます。クラス決定後は、それぞれのレベルの「英語コミュニケーション(Listening)」と「英語ライティング基礎」を前期に履修し、「英語コミュニケーション(Listening)」と「英語ライティング基礎」を後期に履修します。

「英語コミュニケーション(Listening)」では、主に、リスニングに重きを置きながら、基礎的英語コミュニケーション能力の育成を目指した指導が行われます。

「英語ライティング基礎」では、ネイティブ教員により、基礎レベルの実践的な英作文の指導が行われます。

(2) 2年次生

みなさんが1年次の2月初旬に受験する「プレイスメントテスト」の結果を基に再編成されるクラスで、「英語コミュニケーション(Reading)」と「英語ライティング応用」を前期に履修し、「英語コミュニケーション(Reading)」と「英語ライティング応用」を後期に履修します。

「英語コミュニケーション(Reading)」では、主に、読解の指導に重きを置いた指導が行われます。

「英語ライティング応用」では、ネイティブ教員により、応用レベルの実践的な英作文の指導が行われます。

なお、「クラス英語」においては、授業回数の4分の3以上の出席が単位修得の必須条件となっていますので、きちんと出席してください。

3 国際文化交流学科の「クラス英語」

習熟度別のクラス編成になっています。

(1) 1年次生

クラスは、みなさんが4月初旬に受験する「プレイスメントテスト」の結果を基に決定されます。クラス決定後は、それぞれのクラスの「英語コミュニケーション(Listening)」、「英語ライティング基礎」、「英語(O.C.S.)A」を前期に履修し、「英語コミュニケーション(Listening)」、「英語ライティング基礎」、原則として前期より1つ上のレベルの「英語(O.C.S.)A」を後期に履修します。

「英語コミュニケーション (Listening)」では、主に、リスニングに重きを置きながら、基礎的英語コミュニケーション能力の育成を目指した指導が行われます。

「英語ライティング基礎」では、ネイティブ教員により、基礎レベルの実践的な英作文の指導が行われます。

「英語 (O.C.S.) A」では、ネイティブ教員により、実践的な英会話の指導が行われます。

(2) 2 年次生

みなさんが 1 年次の 2 月初旬に受験する「プレイスメントテスト」の結果を基に再編成されるクラスで、「英語コミュニケーション (Reading)」と「英語ライティング応用」を前期に履修し、「英語コミュニケーション (Reading)」と「英語ライティング応用」を後期に履修します。

「英語 (O.C.S.) B」は、通年科目で、1 年次後期に履修した「英語 (O.C.S.) A」より 1 つ上のレベルで履修します。

「英語コミュニケーション (Reading)」では、主に、読解の指導に重きを置いた指導が行われます。

「英語ライティング応用」では、ネイティブ教員により、応用レベルの実践的な英作文の指導が行われます。

「英語 (O.C.S.) B」では、ネイティブ教員により、実践的な英会話の指導が行われます。

なお、「クラス英語」においては、授業回数の 4 分の 3 以上の出席が単位修得の必須条件となっていますので、きちんと出席してください。

4 選択英語

「クラス英語」だけでは学習時間が足りません。その不足を補いながら、さらに実力を伸ばすための授業科目です。「選択英語」では、力を伸ばしたい分野を選べるようになっています。また、いくつかのレベルで授業を開講していますから、自分の力にふさわしいレベルを選んで効果を上げてください。

「選択英語」は、系統的・段階的に履修することができます。

- 英語で話したり、議論ができるようになりたい。
→ 「英語会話・初級～上級」「英語リスニング・中級～上級」を履修する。
- 英語でメールや論文のレジュメが書けるようになりたい。
→ 「英語作文・初級～上級」を履修する。
- TOEIC® テストのスコアを伸ばしたい。
→ 「TOEIC 演習・初級～上級」を履修する。
- TOEFL® テストのスコアを取得し、海外留学をしたい。
→ 「TOEFL 演習・初級」を履修し、その後「Academic Reading」、「Academic Writing」を履修する。

「再入門」の到達目標は、簡単な日常会話ができ、簡単な文章の読み書きができるようになることです。「会話入門」の到達目標は、簡単な日常会話ができるようになることです。どちらも初歩から始めます。

「初級」レベルの到達目標は、「会話」では、日常的な事柄について会話ができるようになること、「作文」では、日常的な事柄に関する文章が書けるようになること、「リスニング」では、日常的な事柄に関する英語を聞いて理解できるようになることです。すでに TOEIC® のスコアで 250～400 点の英語力のある人たちが対象です。

「中級」レベルの到達目標は、「会話」では、一般的な事柄について会話ができるようになること、「作文」では、一般的な事柄に関する文章が書けるようになること、「リスニング」では、一般的な事柄に関する英語を聞いて理解できるようになることです。すでに TOEIC® のスコア 400～550 点の英語力のある人たちが対象です。

「上級」レベルの到達目標は、「読解」と「リスニング」では、一般的な事柄および専門的な事柄に関する英語を理解できるようになること、「会話」では、一般的な事柄について会話ができ、専門的な事柄についても一応の受け答えができるようになること、「作文」では、一般的な事柄について文章が書け、専門的な事柄についても要点が書けるようになることです。すでに TOEIC® のスコアで 550 点以上の英語力のある人たちが対象です。

なお、「TOEIC 演習」の到達目標スコアは、概ね「初級」は 500 点、「中級」は 600 点、「上級」は 700 点以上です。

開講科目は、以下の通りです(ただし、国際文化交流学科の学生は、「初級」の単位は卒業要件単位になりませんので、

注意してください)。「～」が前期科目,「～」が後期科目で, と を連続して履修するのが原則です。授業内容については、『シラバス』を参照してください。

「英語・再入門」「英語・再入門」
「英語読解・上級」「英語読解・上級」
「英語会話・入門」「英語会話・入門」
「英語会話・初級」「英語会話・初級」
「英語会話・中級」「英語会話・中級」
「英語会話・上級」「英語会話・上級」
「英語作文・初級」「英語作文・初級」
「英語作文・中級」「英語作文・中級」
「英語作文・上級」「英語作文・上級」
「英語リスニング・初級」「英語リスニング・初級」
「英語リスニング・中級」「英語リスニング・中級」
「英語リスニング・上級」「英語リスニング・上級」
「TOEIC 演習・初級」「TOEIC 演習・初級」
「TOEIC 演習・中級」「TOEIC 演習・中級」
「TOEIC 演習・上級」「TOEIC 演習・上級」
「英語(O.C.S.) A」(スペイン語学科1年次生のみ:国際文化交流学科の「クラス英語」を参照のこと)
「英語(O.C.S.) B」(スペイン語学科2年次生のみ:国際文化交流学科の「クラス英語」を参照のこと)

また,派遣留学や大学院留学を目指す人向けには,

「TOEFL 演習・初級」「TOEFL 演習・初級」
「Academic Reading A」「Academic Reading B」
「Academic Writing A」「Academic Writing B」

が開講されています。「TOEFL 演習・初級」は初めてTOEFL®を受験する人向けに,4技能(リスニング・スピーキング・リーディング・ライティング)を問うTOEFL iBT®に対応し,テスト対策,および留学時に必要なスピーキング・リスニングの基礎的能力の育成を年間を通して演習形式で目指します。「Academic Reading A」「Academic Reading B」,「Academic Writing A」「Academic Writing B」は,ネイティブ教員により,英語圏の大学レベルの授業についていけるよう,読解力,作文力にそれぞれ重点を置いた授業がおこなれます。TOEIC®スコアで,590点以上の英語力のある人たちが対象です。ある程度,大学レベルの専門教育に慣れたのち,2年次生以降にとるとよいでしょう。

なお,選択英語の科目の多くは「履修制限科目」です。通常の履修登録に先だち応募し,抽選の結果で履修が決定します。抽選の結果,まだ空きがある科目に限り通常の履修登録時に登録が可能ですが,履修したい科目がある場合は「履修制限科目」への応募を行ってください。

また,クラス英語同様,授業回数の4分の3以上の出席が単位修得の必須条件となっていますので,きちんと出席してください。

5 「クラス英語」の再履修

「クラス英語」の再履修者のための授業として「英語 RE - 」、「英語 RE - 」があります。授業回数の3分の2以上出席した人たちが評価の対象になります。成績評価は,原則として,60点を最高点とします。